

阪神・淡路大震災の教訓を活かそう

話題提供メモ

(財) 沿岸開発技術研究センター 野田節男

A. 耐震基準（港湾分野）の改訂に向けて

* 設計地震および地震動

直下型地震、レベル2地震動の採用

* 港湾構造物の耐震性能の目標

レベル1、レベル2地震動に対する目標耐震性能

港湾構造物の特徴（線でなく点、土構造物、水中にある、人的被災は少、etc.）

建設費 vs 耐震性、遭遇確率、Acceptable Seismic Risk 等に関する社会的コンセンサス

* 構造物・地盤の耐震設計

強震時における震度法の適用性、残留変形照査法の実用化、許容変形量の定量化

液状化予測法の高精度化、地盤の側方流動の影響、廉価な地盤改良工法

構造物・地盤の全体系の耐震性評価

* 既存構造物の耐震性評価

残存耐力評価法、耐震補強法の開発

* 新形式構造の開発

ケーソン式その他の構造形式、耐震強化岸壁

* システムとしての港湾の耐震性

岸壁、荷役機械、上屋、荷捌き場、アクセス施設等を含むバランスのとれた耐震性

B. 技術力の向上等

* 発注者の技術力の向上

施設整備計画の段階から耐震センスが必要、基準の盲目的適用の回避

* 耐震設計法、ツールの開発・公開

産学官の協力による効率的開発および活用、液状化による構造物被害予測プログラム(FLIP)の公開

* 新技術の開発

パイロット工事、民間技術評価制度等により新技術の積極的採用

* 設計受注者の技術力の向上

性能規定設計法への対応、マニュアルの安易な適用でない魅力あるプロポーザル